

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1. 成果等報告

モデル事業名	三鷹市快老プロジェクト事業	
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠 <input type="checkbox"/> 震災支援枠 (該当するものにチェック)	
事業実施主体名	三鷹市快老プロジェクト協議体 (三鷹市、特定非営利活動法人鷹ロコ・ネットワーク大楽)	
実施期間	平成24年1月6日から平成25年3月31日まで	
支援額 (注釈参照)	支援額 4,546,000円 諸謝金 100,000円 人件費 11,364,000円 使用料及び会場借料 1,939,920円 委託費 1,325,000円 消耗品 44,680円	
マルチステークホルダー(会議体)の取組状況	特定非営利活動法人鷹ロコ・ネットワーク大楽が傾聴士養成講座を企画運営し、モニターの確保は神田川町会が担った。また、成年後見人の受任要望について特定非営利活動法人多摩東成年後見の会が対応した。三鷹市、早稲田大学地域社会と危機管理研究所及びアイ・コミュニケーションなども連携し、傾聴活動を展開できた。	
事業概要	本事業の目的は、第一に、傾聴士養成講座を実施し、高齢者の傾聴・見守りの担い手育成を行うこと。第二に、TV電話端末を活用し神田川町会で孤立不安を抱える高齢者へのコミュニティサービスを提供するものであり、傾聴士等による傾聴・見守り活動を実施することである。	
事業内容	(1) 傾聴士養成講座の実施 講座は鷹ロコ・ネットワーク大楽が企画運営し、協議体の各構成団体が受講適任者を確保した。 (2) 傾聴活動 モニターの確保は神田川町会が担い、傾聴活動のコーディネーターは神田川町会、鷹ロコ・ネットワーク大楽が行った。マニュアル作成、課題の分析や満足度調査の実施などは、早稲田大学地域社会と危機管理研究所に委託した。TV電話端末のサポートはアイ・コミュニケーションが行い、三鷹市が傾聴活動全般の助言をした。また、多摩東成年後見の会は成年後見制度の周知も行った。	
得られた成果及び自己評価	高齢者モニターは20人が目標。傾聴士養成は35人が目標。達成状況：モニター11人、傾聴士養成45人。傾聴士養成講座は、受講者を介護職経験者や市民後見人受任を目指す人等に限定したが、目標を上回った。これは傾聴士養成講座の意義や内容が市民に評価されたからである。モデルとなるのは、町会が傾聴活動に取り組むという仕組みであり、一人暮らし高齢者等の見守りが充実したことである。神田川町会では、地域包括支援センター等と協力し「向こう三軒両隣の見守り活動」として、平成25年度以降も、町会の傾聴士がモニターの見守り・傾聴を続けていく。	
評価ランク	<input checked="" type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった (該当する評価にレを付けてください。)	

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が50万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

## 2. 添付書類

事業の実施内容及び実績に関する報告書